

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



▲茨城縦貫幹線道路道祖神峠トンネル整備促進期成同盟の議員団で独自に道祖神峠トンネルの交通量調査を行いました。前列左から、高橋直子幹事（土浦市選出）、戸井田和之幹事長（石岡市選出）、会長の私、右端は鈴木将幹事（つくば市選出）。後列は、栗林県土浦土木事務所長（中央）ら県土木部幹部の皆さん。（令和6年10月29日）

▲期成同盟の議員団で県の林利家土木部長（写真上）と久保三千雄営業戦略部長（写真下）へ要望書を提出しました。（令和6年12月6日）

TOPIC① 道祖神峠トンネル化に向けて独自に交通量調査を実施 —トンネル整備促進県議団—

私が会長を務める「茨城縦貫幹線道路道祖神峠トンネル整備促進期成同盟」の県議団は、令和6年10～11月に、独自に道祖神峠でAIによる交通量調査を実施しました。その結果、令和元年に県が行った調査結果よりも、交通量が増加していることが示されたことから、住民の利便性向上や地域の発展を図るためにも、トンネルの整備は必須であります。

令和6年12月6日、その調査結果を踏まえて、道祖神峠トンネルの早期整備実現について要望書を提出しました。

今回の要望では、このトンネルを県の茨城縦貫幹線道路構想の重要整備区間として先行的に整備すること、利便性の高い交通網強化に資する整備とすること、産業振興や広域観光の軸となるよう地元と連携協働すること等を求めました。

今後ともトンネルの実現に向け、一層努力をしておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

道祖神峠の交通量調査結果

調査日 令和6年10月29日(火)、31日(木)、11月3日(日)、4日(月・祝)、5日(火)

結果(抜粋) 平日24時間の平均交通量

	期成同盟調査 (今回)	県調査 (R元.5.8(水))
下り(石岡方面)	372台	352台
上り(笠間方面)	401台	348台
合計	773台	700台

交通量は増加している!

(参考) 朝日トンネルの1日の交通量
トンネル施工前の朝日峠の交通量は約1,000台だったが、直近の調査(令和3年11月時点)では、1万2,000台を超えている。

TOPIC②

いばらき自民党重要政策大綱へ 取り入れました。実現に向けて頑張ります!

昨年12月、新年度の予算編成に先立ち、我々いばらき自民党は「令和7年度いばらき自民党重要政策大綱 ― 安心、いきいき、魅力いっぱい「新しい茨城県」を目指して ―」を策定し、大井川知事はじめ執行部へ提出しました。今後も県民皆様の声と、県が抱えている課題の改善に向けた施策の推進について、執行部へ要請してまいります。

中でも、私、常井洋治が、特に力を入れて取り組むべきと考え、政策大綱に取り入れた内容についてご紹介します。

○県立中央病院の建て替え、充実について

- 県立中央病院は、施設の老朽化、狭隘化が進み、手術室不足が常態化している。災害拠点病院として大規模災害に備えるべく、免震構造による、全面建て替えを行う。
- 水戸保健医療圏における病院の再編統合の中で、県立中央病院が県央・県北地域の最後の砦として、再編後の**フラッグシップ・ホスピタル**(※)として医療提供体制の一翼を担えるようにする。
※フラッグシップ・ホスピタル…高度医療の提供、医師への教育などの機能を有する中核的な病院

○茨城中央工業団地(笠間地区)での県産品販売

- 常磐道友部サービスエリアに隣接する茨城中央工業団地(笠間地区)の未売却用地において、笠間市や県産農林水産物の直売を行う等、**県内版アンテナショップ**として活用する。

○茨城空港の活用促進と周辺の賑わい創出

- 茨城空港において、民航機の着陸ルールの弾力的運用が開始されたことから、国内、国際定期便やチャーター便、ビジネスジェットなどの就航路線の誘致や受入環境の整備に取り組むとともに、地元と連携し空港周辺の賑わい創出を図る。
- 茨城空港が今後もにぎわい拠点として存在し続けるよう、小美玉市が検討を進めている「新まちづくり構想」において、**百里基地や茨城空港をPRする施設の実現**に向け、小美玉市と連携していく。

○道祖神峠のトンネル化の実現

- つくば市・土浦市・石岡市から笠間市間の**道祖神峠のトンネル化**を実現して、大子町方面に向かう(仮称)茨城縦貫幹線道路の整備を進める。

令和6年県議会第4回定例会を終えて

令和6年第4回定例会は、11月29日から12月16日までの18日間開かれ、令和6年度補正予算など42件の議案などが可決、同意、認定、承認、採択されました。

令和6年度12月県一般会計補正予算を可決

◎補正予算	113億83百万円
◎補正後予算	1兆2,715億61百万円

※10月・11月専決処分含む

(1)衆議院議員選挙執行費 (10月専決処分)	1,723百万円
(2)議会議員選挙執行費 (11月専決処分)	70百万円
(3)職員の給与改定に要する経費	9,590百万円

営業戦略農林水産委員会の質疑要約 (R6.12.10)

- 農業者と消費者の地域内循環型ネットワークの形成や気候変動への対応に向け、農林水産部は予算や組織体制等を検討すべき。**
- 友部SAの売店や隣接する茨城中央工業団地(笠間地区)の未利用地を活用して、地元農産物等の販売ができるよう取り組むべき。**

【農林水産部】

常井委員 (議員提案で制定した)茨城県食と農を守るための条例第23条に、「地域内の農業者と消費者との循環

型ネットワークづくり」について規定した。地域の消費者が食料生産を担う農業、農業者の価値を正しく評価し、自らの命の問題として支えていく。消費者は農業者とともに地域作りに取り組む。そういったネットワークが非常に重要である。この実現に向けて農林水産部としてどのように取り組むのか。

谷口農業技術課長 消費者の理解醸成が極めて重要であると考え、特に有機農業については、有機農産物の消費拡大に向け、関係者間の相互理解促進に取り組んでいる。

常井委員 企業戦士という言葉があるが、農業者は、まさに「農業戦士」といえる。彼らが誇りを持って農業に取り組めるよう、皆で支えることが必要である。地域内循環型ネットワーク形成に向けては、地域を限定し、モデル的

に取り組むことが必要ではないか。

谷口農業技術課長 県北地域の好事例等を参考にしながら横展開を進めていきたい。

常井委員 ネットワーク形成は、茨城発の問題提起であり、農業の在り方を考える起点である。実現のためには県の予算・組織等を整備する必要があると思うが、所見は。

掛札農林水産部次長 関係部局との連携を強化しながら、ネットワーク形成を推進していきたい。

常井委員 同条例でも取り上げているため池は、主に市町村管理であるため、県は直接関わっていないと思うが、泥の堆積等により湛水能力が無くなる等、その保全に課題がある。ため池が機能不全となり、食糧危機等、いざというときに使用できない事態は避けなければならない。その保全管理について農林水産部の取組は。

井坂農村計画課長 県内のため池に関する情報をデータベースとして公表している。また、定期的な調査により堆砂状況等について把握しており、直近の調査では、県内のため池のうち約9割について、堆砂量が貯水量の3割以下であると把握している。堆砂状況が3割を超えるため池については、管理者に対し浚渫に関する補助事業等を案内するなど、その保全管理に努めている。

常井コメント 昨年1月調査では、笠間市内144か所のため池は全て3割以下となっているが、実態とはかけ離れていると思う。

常井委員 管理者への案内のみでなく、県が、各市町村で1か所ずつでもモデル的に浚渫を行っていくべきと思う。

渡辺農地局長 ため池の保全管理の重要性は認識している。今後は、市町村や農業者といった関係者と一体となり、維持管理を見据えた適切な整備水準を検討していきたい。

常井委員 温暖化等の異常気象で、従来のように作物を作ることが難しくなっている。営農指導の在り方が問われており、農林水産部への期待は大きい。新年度に向け、予算や組織体制を見直し、検討してもらいたい。

鴨川農林水産部長 これまで農林水産部のブランド化を進めてきたが、近年の気候変動に伴う障害への対策に、重点的に取り組まねばならないと認識している。組織や予算についてしっかり取り組んでいきたい。

【営業戦略部】

常井委員 群馬県の「ららん藤岡」や栃木県の壬生のハイウェイオアシスは、高速道路のパーキングエリアから直接隣接する地元の施設へ行き地場産物等の購入ができる。本県でも同様に、常磐道上り線友部サービスエリアに隣接する茨城中央工業団地(笠間地区)の土地で、県産農産物を販売し、そこにサービスエリアからアクセスできるようにしてはどうか。農業者にもメリットがあり、また、地域



の観光にも繋がる。ぜひ、実現について検討してもらいたい。

関販売戦略課長 当該土地はサービスエリアと隣接していることから実現の可能性はある。しかし、工業用地であるため関係機関との調整が必要。まずは、試験的に友部サービスエリアで農産物を販売し、実績を作ること等を検討したい。

常井委員 以前にそこで(そういう趣旨で)農産物等の販売

イベントを行った際は大変盛況であったことから、売上が出ることは確かである。また、土地利用等の課題があるならば、それをクリアすることが営業戦略部の仕事である。工業団地での販売は、毎日実施する必要はなく、例えば、ひたち海浜公園の行楽期等に行えば集客が期待できる。海外やアンテナショップで都内に目を向ける前に、地元を活用すべきだ。

橋川営業戦略統括官 以前のイベントが非常に好評であったことは私も把握している。他部署と相談しながら、検討を行っていききたい。

常井委員 検討ではなく、進めてもらいたい。

常井委員 茨城空港でのビジネスジェットは、まだ運航に至っていないが、売り込み方が弱いのではないか。

伊藤空港対策課長 富裕層向けの旅行会社に対し、茨城空港を使った観光コンテンツの造成を働きかける等、早期の運航実現に向け努力している。

常井委員 小美玉市による空港周辺の整備計画では、我々いばらき自民党茨城空港振興議連(私が会長)が求めてきた「航空博物館」に代わる、航空自衛隊や茨城空港のPRを兼ねた施設整備も検討していると聞かすが、現状は。

伊藤空港対策課長 小美玉市の「新まちづくり構想」の中で、航空自衛隊の紹介や百里基地のPR、フライトシミュレーター等の機能を有する複合的な交流施設の建設を検討していると聞いている。現在は、整備内容やスケジュールについて市が検討しているところである。

常井委員 空港の(すぐ)近くにその交流施設を作るよう、県も市を支援して、一緒にやってもらいたい。よく検討して取り組んでほしい。

鈴木空港対策監 小美玉市において、どのような施設にするか、空港本体との移動動線をどうするか等を検討していると聞いている。小美玉市・空港全体の地域のにぎわいづくり、ひいては将来の茨城空港にとって非常に重要であるため、県としても市と協力していく。

とこい洋治が見つけた地元の元気!



市内小中学校の運動会





▲柿橋区の運動会は、市内最大規模で大勢の方が参加して楽しんだ。継続して開催する熱意はすごい。(R6年11月)



▲笠間市ふれあいスポーツの集いで参加した障がい者の皆さんと準備体操。(R6年10月)



▲上押辺区の敬老会では、オカリナ友部の皆さんの演奏を楽しんだ。(R6年10月)



▲新渡戸区の敬老会では、三世代が集まり、小学生から高齢者への祝辞を述べた。地域の温かさが伝わった。(R6年11月)



▲第21回スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会in西郷村で優勝して笠間市表彰を受けた北川根小学校の選手の皆さんと。新年賀詞交歓会にて。岩間第三小学校は、準優勝。(R7年1月)



▲岩間武道館で開催された茨城県合気道連盟(私が会長)主催の演武会には、300人を超える修練者が参加して見事な技を披露した。(R6年10月)



▲北川根地域交流グラウンドゴルフ大会(菊地会長さん)では、毎年、和気あいあいとした競技が実施されている。(R6年11月)



▲福島区のそば会では、たくさんの区民が集まって、そばを打って食べながら楽しい談義が続いた。(R6年11月)



▲笠間地区交通安全協会岩間分会(大嶺分会長)の皆さんが主催した交通安全グラウンドゴルフ大会にて。打った後は必ず手を挙げて横断歩道(白線部分)を渡る。(R6年10月)



▲死亡した秘書課勤務の県職員(岩間)の死因と真相究明を県人事委員会に求めた。(R6年11月)



▲岩間地区の旧平安閣のゴミについては、県の指導で徐々に撤去してきたが、この度建物で4度目の火災が発生。地域の不安を解消するため、解体など笠間市の対応を望む声強い。(R6年11月)

HPアドレス●<https://tokoiy.jp/>をぜひご覧ください。
フェイスブックもどうぞご覧ください。皆様のご意見をお待ちしています。

ホームページ フェイスブック

